

編集後記

宍粟市山崎文化協会

藤井慧乗

『しその逸話』発行に就いては、執筆された藤村清一氏が労作の経過をご報告頂いておられますが、十年間の長きにわたり、五十五回の執筆は、頭の下がる御苦勞であった事と存じます。北は千種の鍋ヶ森から、南は安富狭戸まで、現地を歩かれ、古老に会い、古文書を調査され、恐しい話、面白い話、恋の話題、この発刊のお手伝いをさせて頂きながら、改めて深い敬意を抱きます。

申すまでもなく、宍粟郡は新市として、官民一体してその理想に向って進んでおりますが、旧宍粟郡であった頃の、親しさ懐しさは忘れる事が出来ませんが、今ここに森林王国のソフト事業としてこの書物が刊行されました事は、時を得たすばらしい事業であります。心より深く喜ぶ事であります。

編集させて頂きますと、著作されました、藤村さんは勿論の事、当初より藤村さんと同行され写真取材頂きました文化会館の福岡さん、市当局の世良さん、山崎文化協会の前野さん等、皆さん方の御協力によりこの素晴らしい事業が成就いたしました。同慶の至りであります。有難うございました。

『しそうの逸話』づくりの経過について

宍粟市山崎文化協会

藤村清一

このたび（財）しそう森林王国協会から「人と自然が輝き、明るく楽しい安全な地域づくりの一助になれば…」と、いうので宍粟市と宍粟郡安富町内で昔から語り継がれてきた伝説と民話を掲載した『しそうの逸話』が発行された。

財団法人山崎文化振興財団（山崎文化会館）の広報「サンホールやまさきニュース」に五十五回にわたって連載された六十五項目の「郷土の伝説と民話」を集録したもの。「遠い昔の『しそう』の人たちの生活や感情、美しい自然など思い浮かべながら楽しく読んでいただきたい」と思う。

平成三年（一九九一年）山崎文化会館が地域文化の振興を図る一つの方策として「サンホールやまさきニュース」を創刊。当初は同会館で開かれる音楽会、演劇、映画をはじめ美術展示会など文化行事の日程や、その内容を記載して各家庭に配布していた。

あくる同四年（一九九二年）この広報の内容を充実するため地元山崎町文化協会に「文化振興に役立つ記事を出稿してほしい…」と要請。同協会は、これを快諾した。その時、私が同協会の事務局を担当していたので、当時の壺阪壽会長から「文化会館からの要請に対応して下さい…」との指示を受けた。

そこで、手はじめとして同協会加入の単位文化団体の活動状況。

次いで文化会館周辺の「埋御門跡」など史跡の記事を出稿した。このあと同七年（一九九五年）。当時の同会館の西山政男館長から「ふるさとの伝説や民話の執筆をしてほしい…」と頼まれ、これに答えて「郷土の伝説と民話」を書きはじめ、いままでに五十回の連載となった。

取材に当たっては、写真撮影担当の山崎文化会館、福岡一志係長と一緒に必ず伝説、民話の現地に出かけ、地元の歴史に詳しい方々や古老の人たちの話を聞いた。恐ろしい話、悲しい話、楽しい話など種々様々だったが、なかには「本当にあったことなんだろうか…」と驚くほどの語り継ぎもあった。現地取材のあと各町発行の町史や関係書籍を参考に、出来るだけ楽しく読んでいただけるよう話の本筋を違えないよう心掛けながら私の想像もまじえて執筆した。

平成十七年（二〇〇五年）の晩秋。宍粟市企画部政策推進課、森のゼロエミッション係の世良智係長が、私宅においてになり「山崎文化会館の担当者とも話し合い、あなたの書かれたサンホールやまさきニュースに連載の『郷土の伝説と民話』を明るく楽しい夢のある地域づくりのため一冊の本にまとめて発刊したい…」との話があった。私は思いもかけぬことだったので、びっくり。「拙文なので本にしていたくのは恥ずかしい…」などと思いつつも承諾。このことを宍粟市山崎文化協会の藤井慧乗会長、同、前野良造事務局長に話したところ、お二人とも「本づくりにするのは、いいことですね。協力しましょう…」とのことだった。

同年十二月八日、山崎文化会館で第一回編集委員会が開かれ、

しそう森林王国協会の西山大作事務局長はじめ編集委員らが出席し、どんな本づくりをするのかを協議。前記、世良係長提案により本の題名を『しそうの逸話』にすることなど決め、本格的な本づくりとの取り組みをはじめた。その後、編集委員会を重ね、掲載写真、伝説、民話の現地を表示する地図の挿入など話し合い、いよいよ出版する運びとなった。

「郷土の伝説と民話」が連載できたのは、関係地域の多くの人たちに、お世話していただいたお陰だが、とくに山崎町の山崎郷土研究会、会報部長の大谷司郎さん、同元会長の故・堀口春夫さん、歴史家の横井時成さん、「蔦沢の伝説と民話集」を著作された矢野寅之助さん。元山崎町文化協会事務局長の河本雅視さん。一宮町の元同町文化協会長の中村長吉さん、同・庄一幸さん、同・大井直樹さん、歴史資料館学芸員の田路正幸さん。波賀町の宍粟市文化協会長の大成みちよさん、同町市民局、地域教育課長の岡田博行さん、千種町の元教育長の上山明さん。安富町の文化協会長の小坂隆雄さんには一方ならぬ、ご指導、ご協力を賜りましたこと、心から深く感謝。

また『しそうの逸話』づくりに尽力して下さった、しそう森林王国協会理事長の中田耕一郎さん。編集委員の山崎文化協会長の藤井慧乗さん、同・事務局長の前野良造さん。市役所の世良智さんはじめ同市企画部のみなさん、山崎文化会館の福岡一志さんら同会館の職員の方々にも厚くお礼申しあげる。

【編集委員】

藤井 慧乗 宍粟市山崎町須賀沢四四五
前野 良造 宍粟市山崎町山崎五〇
藤村 清一 宍粟市山崎町山崎一八一

【協力】

大谷 司郎 (宍粟市山崎町在住)
小坂 隆雄 (宍粟郡安富町在住)
中村 長吉 (宍粟市一宮町在住)
田路 正幸 (宍粟市一宮町在住)
岡田 博行 (宍粟市波賀町在住)
上山 明 (宍粟市千種町在住)
福岡 一志 (山崎文化会館職員)

【事務局】 (財) しそう森林王国協会

西山 大作 (事務局長)
坂根 雅彦 (事務局次長)
世良 智 (事務局)
大西 常広 (事務局)

参考引用文献…サンホールやまさきニュース

(財団法人 山崎文化振興財団発行)

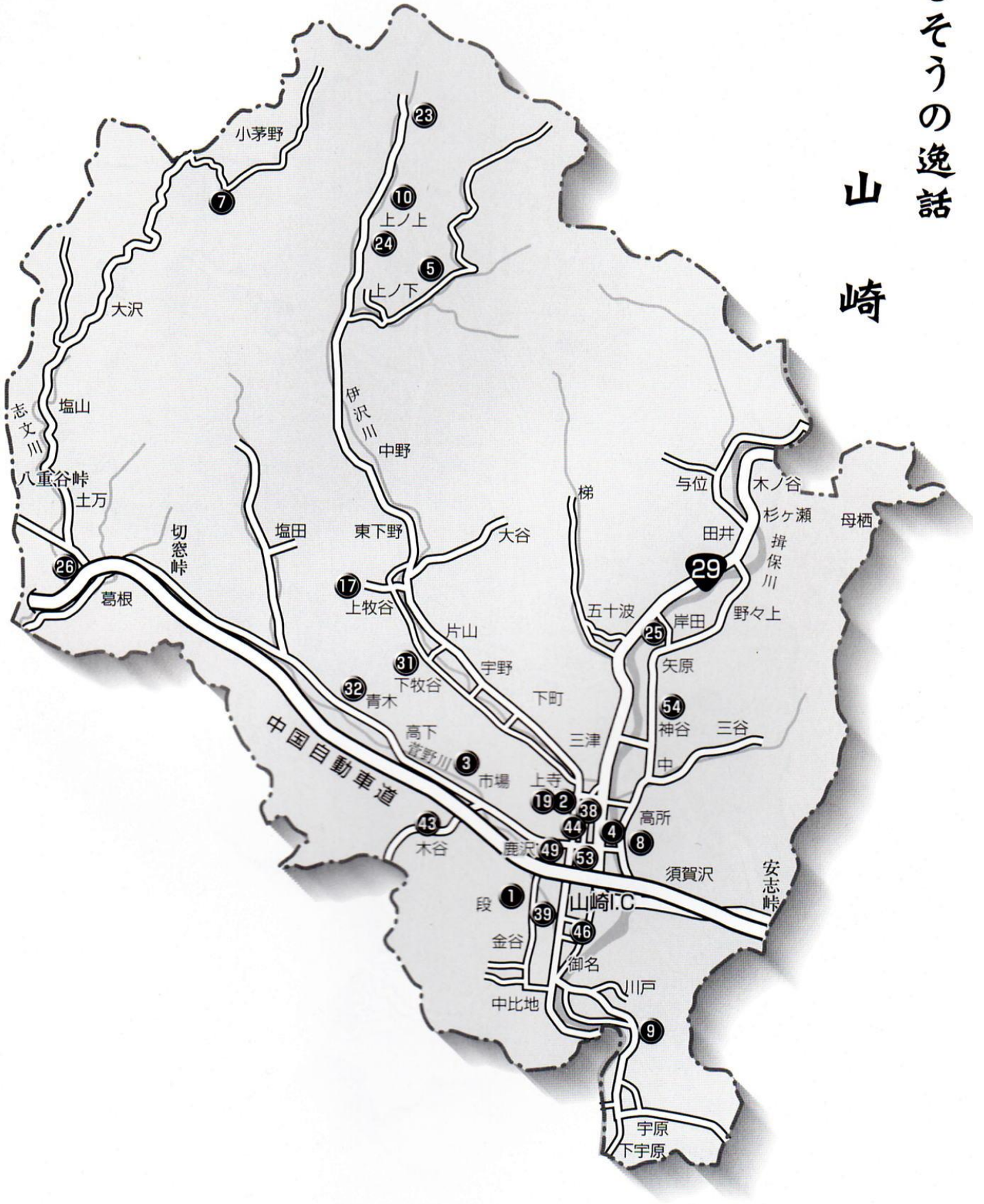
表紙写真

右上から「千年家」(安富町)、「波賀城」(波賀町)、「千年藤」(山崎町)、「平成の大馬鹿門」(千種町)、「横山のチャンチャコ踊り」(一宮町)

題 字 「しそうの逸話」藤井慧乗氏書

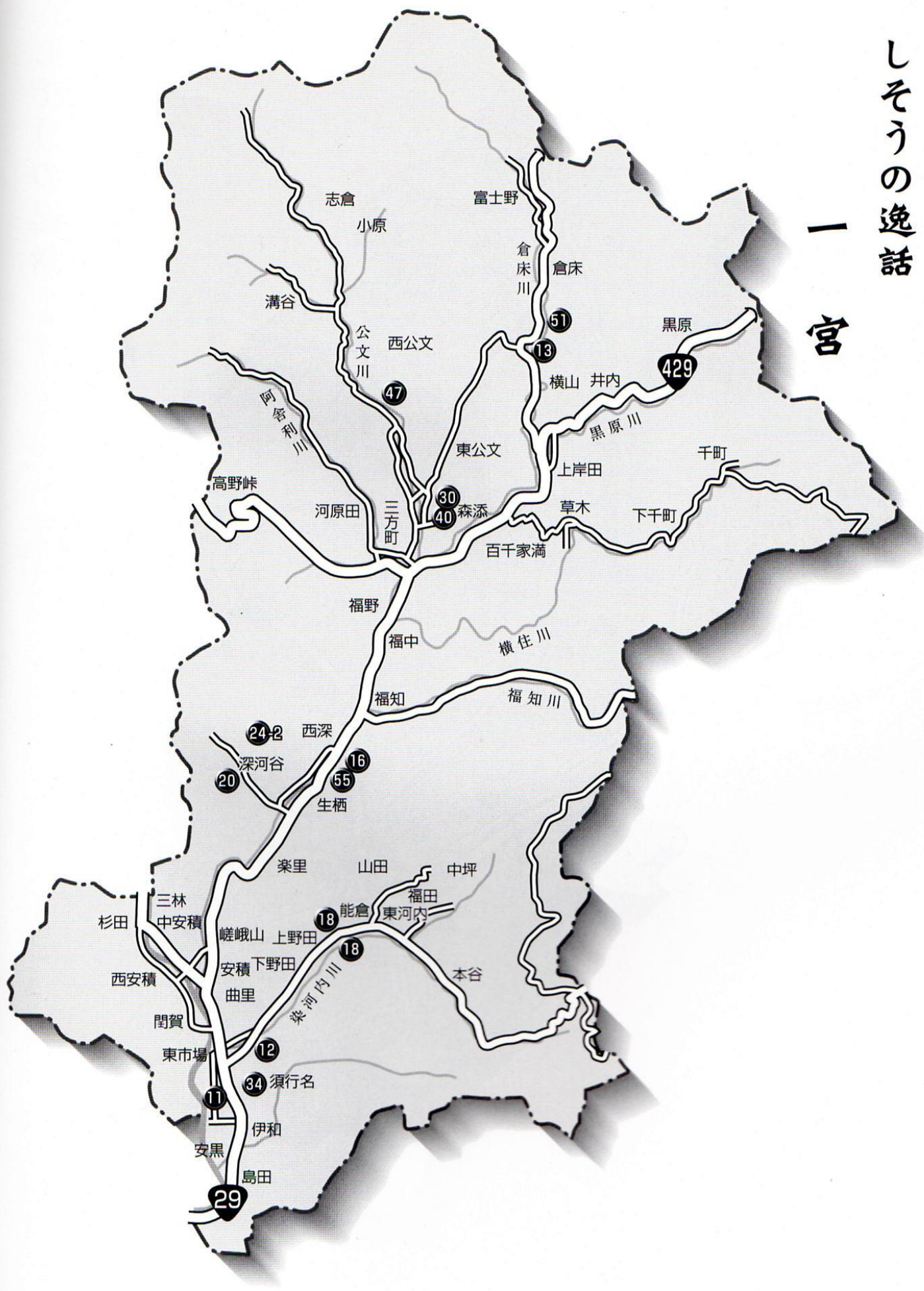
しそうの逸話

山崎



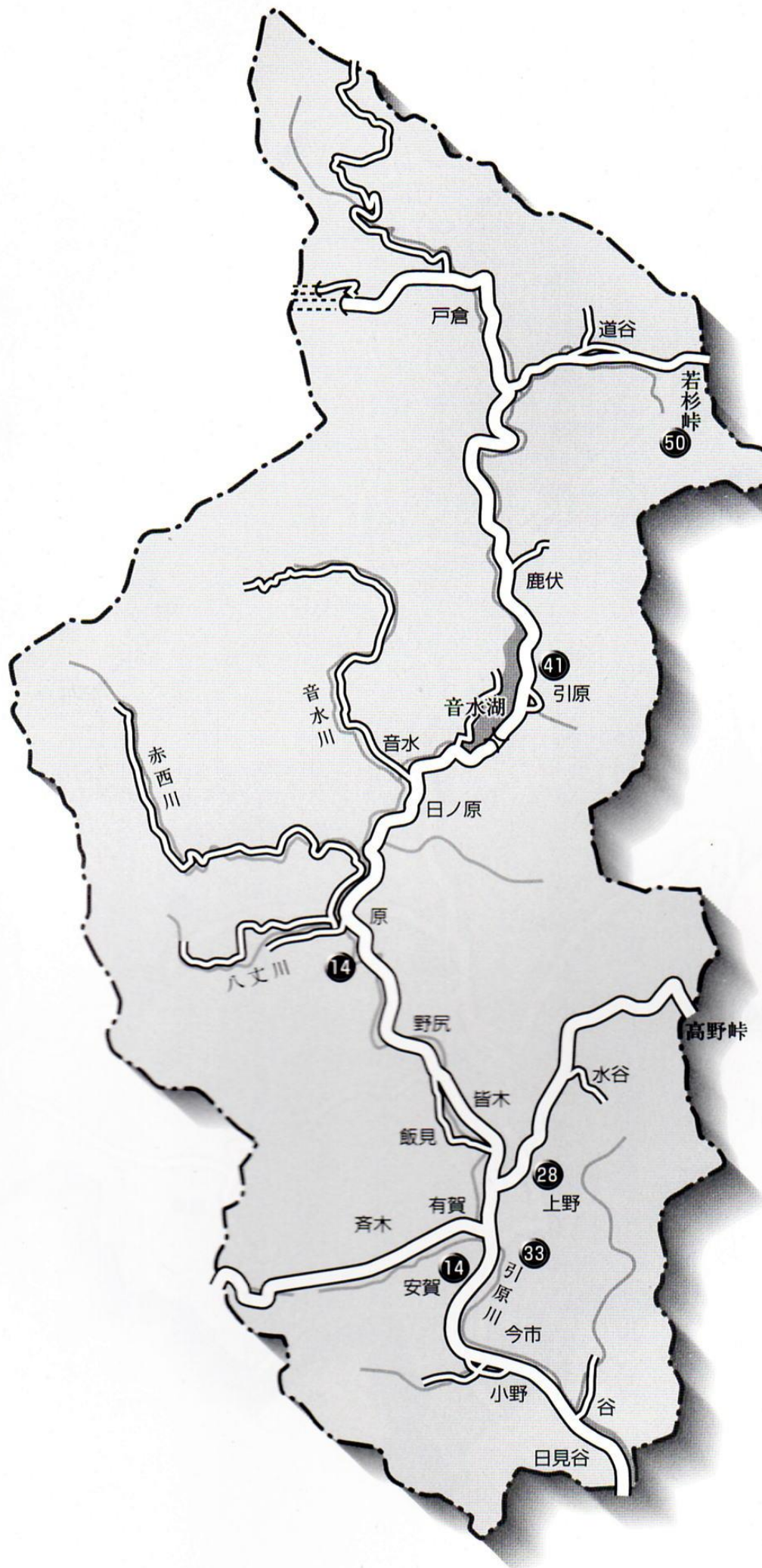
しそのうの逸話

一宮



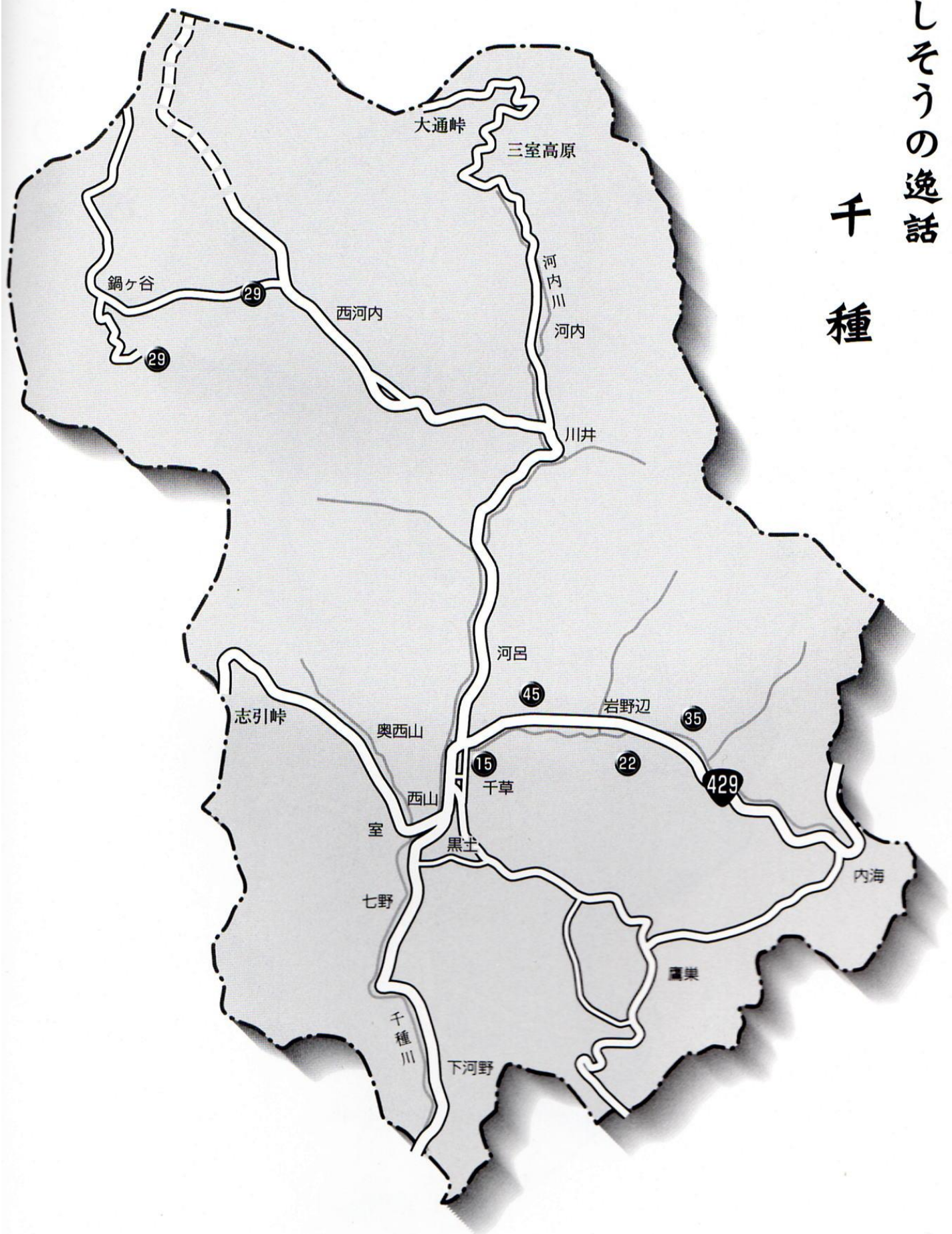
しそうの逸話

波賀



しそうの逸話

千種



しそうの逸話

安富

